鳥類　＜チドリ目　シギ科＞　　愛知県：絶滅危惧Ⅱ類（越冬）　（国：リスト外）
AVES　＜CHARADRIIFORMES　SCOLOPACIDAE＞　　AICHI：VU（Win）　（JAPAN：－）

アオシギ　*Gallinago solitaria* Hodgson

【選定理由】

10 月下旬から 11 月上旬に飛来して越冬し、4 月下旬から 5 月上旬には繁殖地へ渡去する。かつて県内では標高の高い場所で越冬する冬鳥と思われていたが、1990 年頃から山麓に近い山地でも越冬していることが判明して以来、県内の観察記録が増加した。英名 Solitary Snipe の通り、渡去直前の番い形成期以外はほとんど単独で行動しており、山間部の広い範囲に 1 羽程度の生息密度であるために、県内の生息数はかなり少ないものと推測される。人が立ち入らない水路や湿地に生息するため、交通量の多い道路や施設ができるとその周辺から姿を消してしまう。

【形　態】

全長 29～31cm、翼開長 51～56cm。タシギ属の中では体が最も大きい。頭央線は白色で上面に黒褐色と赤褐色の斑が複雑にあり、肩羽に白斑がある。胸はオリーブ褐色で細かい横斑が密にあり、下面は白色で脇に褐色の太い横斑がある。

愛知県新城市, 2019 年 2 月 2 日, 杉山時雄 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

冬期に山間部の渓流や水路、水田などに生息するが、生息数はごく少ない。

【国内の分布】

冬期に生息し全国的に記録があるが本州中部以南では少ない。

【世界の分布】

シベリア東部および中部、ヒマラヤ北部、サハリンで繁殖し、冬期は中国南部、インドに生息し、2 亜種に分けられる。

【生息地の環境／生態的特性】

県内では標高 1,000m に近い山地から、標高の低い里山までに飛来して越冬する。標高の高い場所では渓流の周辺や草原の水路、低い場所では里山環境の水路や水田などに生息する。警戒心が非常に強く、人の姿があるとすぐに飛び去るため、よほど注意をしていないと見逃すことが多い。コンクリートの三面張りでも、河床に土砂や枯草などが溜まった環境があれば生息する。脚を伸縮して体を上下させながら、カゲロウの幼虫などの水棲昆虫や、巻貝などを捕食する。

【現在の生息状況／減少の要因】

生息密度が低いうえに警戒心が強いので、姿を見ることが極めて困難な種である。猿投山の周辺から本宮山までの範囲にある三河高原やその周辺では比較的記録が多いが、この広い範囲でもひと冬に確認できるのは 5 羽程度以下である。ほとんど人が立ち入らない場所に生息するので、こうした場所に道路の建設や整備が行われたり、何らかの開発行為が行われると生息できなくなる。

【保全上の留意点】

生態に詳しい者でなければ姿を観察することも困難な種であり、その存在が知られることもなく姿を消している例は少なくないと思われる。山間部で開発行為が行われる場合は、こうした種の生態に詳しい識者の意見を採用して、より環境に優しい工事を行うべきである。

【特記事項】

県内では山地やその山麓で越冬しており、尾張東部丘陵や知多半島、渥美半島周辺の丘陵地で越冬期の確認記録は無いが、一度だけではあるが尾張東部丘陵の岐阜県側で確認記録があることから、県内の丘陵地でも越冬の可能性は否定できない。

【関連文献】

真野 徹, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, p.140. 世界文化社, 東京.

（高橋伸夫）